

ため池の安全管理は大丈夫？



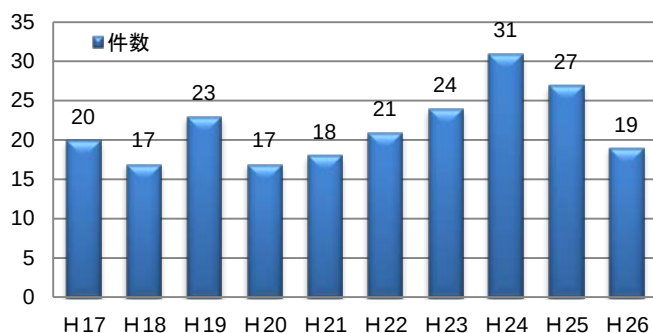
平成27年6月

農林水産省 農村振興局
整備部 防災課

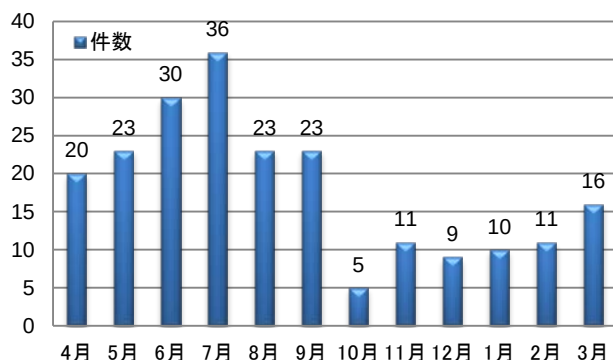
ため池における事故発生状況

- ため池周辺では、都市化や混住化が進んでいるところも多く、事故の発生件数は増加傾向にあります。
- また、事故者の年齢は、20歳未満の幼児・児童などの若年層及び60歳以上の高齢者が多くなっています。
- 事故は、4月から9月にかけて、釣りや水遊びなどの娛樂中に多く発生しており、次いで自動車運転中の転落事故が多くなっています。

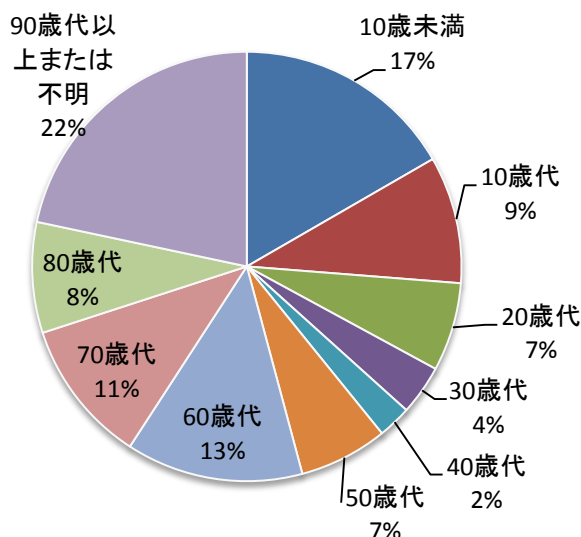
年度別の死亡事故発生件数



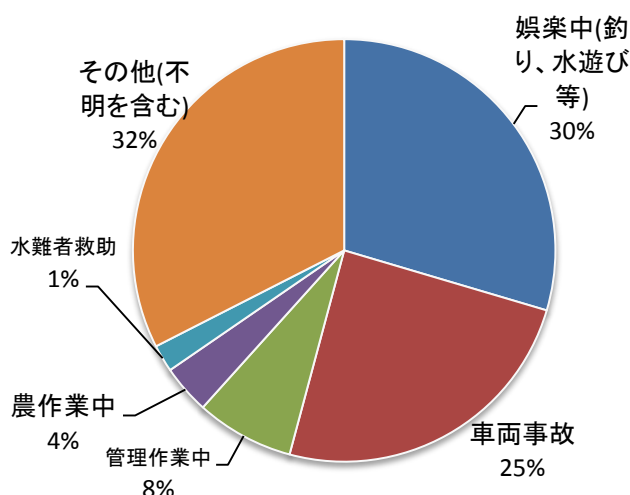
月別の死亡事故発生件数



死亡事故者の年代別割合



死亡事故の経緯別割合



事故の傾向から見た安全対策

- 事故の傾向と考えられる背景から、ハード・ソフトを組み合わせた対策を強化していく必要があります。

事故の傾向	考えられる背景	対 策 (案)	
		分類	内 容
□春期～夏期に多く発生	・ 農繁期による施設操作 ・ 娯楽利用者の増加 ・ 散策などの増加	ソフト	・ 操作者への安全教育 ・ 広報誌等による啓発活動
□若年層や高齢者の事故が多い	・ 判断力の欠如 ・ 危険区域への進入 ・ 高齢者の不慮の転落	ハード	・ 安全施設、進入防止柵の設置 ・ 脱出しやすい施設構造 ・ 進入禁止及び警告看板 ・ 救命道具の常備
□娯楽中や車両の事故が多い	・ 判断力の欠如 ・ 危険区域への進入 ・ 車両防護柵の不備		

安全対策の取組事例 . . . ソフト面の対策

○施設管理の視点

施設管理者を対象とした防災、安全の両面から講習会を開催。事象事例を学びながら意識の向上を図る。

○啓発活動の視点

行政機関を主体に安全対策協議会を組織し、行政と施設管理者等が協力して、事故防止の啓発活動を実施。



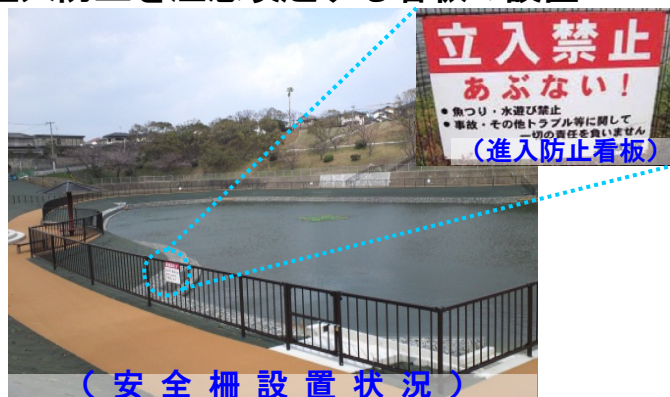
(講習会の状況)

安全対策の取組事例 . . . ハード面の対策

○事故の抑制・抑止の視点

- ・ 転落防止を目的とする安全柵の設置
- ・ 進入防止を注意喚起する看板の設置

- ・ 転落時の脱出補助施設の設置
- ・ 転落防止を目的とする安全柵の設置



(安全柵設置状況)



脱出補助施設(安全ネット)

※事故抑制：看板などの事故を未然に防止すること、事故抑止：転落防止などの事故を物理的に防止すること

通常有すべき安全性

- 日頃から万が一を想定して、管理しているため池が危険な点がないかどうかを常に確認しておくことが必要です。
- 下表は自己診断用のチェックリストの例です。このようなチェックリストを用いて客観的に確認することが重要です。

【自己診断項目】

区 分	内 容	確 認
日常的な施設の巡回・点検等	・ 進入する出入口の施錠がなされているか	☐
	・ 転落防止用安全柵が破損して人が入れるようになっていないか(破損していれば要補修)	☐
	・ 看板は表示が消えかかっているか(消えかかっているら要補修)	☐
	・ 小さい子供が理解できる表示板の内容となっているか	☐
	・ 安全柵等を越えて遊ぶ子供や釣り人がいないか	☐
	・ 高齢者でも管理しやすい状況となっているか	☐
	・ 夜間外灯の設置の有無と点灯の確認(堤体周囲の道路の交通状況も確認する必要)	☐
構造上からみた危険性	・ 構造上の問題(深さや垂直な側壁)あるいは水深等から、転落した場合に、子供が脱出できる構造かどうか	☐
立地条件からみた危険性	・ 通学路、住宅密集地に位置していないか	☐
過去における転落事故の有無	・ 過去に転落事故が発生していないか	☐
	・ 周辺の施設で転落事故が発生していないか	☐
安全管理に係る啓発活動の実施	・ 周辺自治会等との情報交換(安全柵の設置、通水時期の周知等)	☐
	・ 転落の危険性等の周知(かんがい期に入る前に広報誌等でため池の危険性を周知)	☐

※参考：「土地改良施設安全管理の手引き」(平成18年3月 全国水土里ネット)

住民等への説明(危険性の認識)



小さい子供が理解できる表示板の設置

